

葛尾村大字落合の松本ともいさん(64)

●現住所 三春町大字柴原の仮設住宅

震災のため横浜の親戚に預けていた我が家への愛犬ラブと再会できたのは9月のこと。ペットを飼える仮設住宅を申し込み、ようやく一緒に暮らせるように。最初は色々な人が集まっている仮設内で犬を飼って迷惑にならないかと不安でしたが、幸いみんなが可愛がってくれて今や人気者。あれから1年、苦難と共に歩んできた家族の一員として、これからも一緒に生きていきます。

飯舘村須賀の佐藤俊昭さん(43)

●現住所 福島市伏拝の借上げ住宅

東京電力福島第一原発事故に伴い緊急雇用紹づくり支援員として昨年8月より勤務しております。ボランティア調整物資担当として数多くの人と接し、困っている人達に対する支援活動の多さに驚きです。全国から温かい贈り物や数多くのボランティア等で避難者が支えられている事に感動しています。もし自分が逆の立場なら出来たのだろうかと考えさせられる毎日です。

浪江町大字大堀の今野昭三さん(83)

●現住所 大玉村玉井の借上げ住宅

何を頑張れば良いのか骨組が見えなかった昨年。一家揃って笑顔で暮らせる安心と云う最高の慶び。戻らぬ昨日を懐かしむより、今年は辰年。干支は我が生れ歳。昇龍に跨り栄光の園に向かって前進する事を決意する。原発の廃炉迄40年。帰りたいけど帰れない。アア夢に見るよ故郷浪江。帰れる日が来るやう来ないやら。我が人生は、此處で終りか?いつの日、幸はめぐるやら…。

川俣町山木屋の高橋正春さん(51)

●現住所 川俣町大字鶴沢の借上げ住宅

大地震、原発事故、計画的避難と今まで経験したことのない事が次々と起こり大変な1年でした。そんな中でも、人の心のぬくもりと絆を感じさせてくれる1年でもありました。私たちの「山木屋太鼓」が、少しでも復興につながる元気を与えられるよう、太鼓で応援していきます。4月には、ワシントンDCの桜祭りにも出演する予定です。「元気な福島」を見せてきます。

川内村大字下川内の佐久間真由美さん(27)

●現住所 郡山市富田町の仮設住宅

仮設に入り早くも8ヶ月。今までたくさんの人の温かみに救われました。「ありがとう」がいくつあっても足りないくらい…。川内村は帰村宣言が発表されましたが、まだまだ除染も進まず1歳の娘と帰ることは出来ません。1日も早く安心できる村を取り戻し、家族そろって帰りたいです。今年は見せることが出来ない雛人形を来年こそ飾ってあげられるよう願っています。

いわき市平薄磯の荒木澄江さん(62)

●現住所 いわき市常磐下船尾町の借上げ住宅

母と一緒に塩屋崎灯台のもと、美空ひばり歌碑の前でみやげ物店「つるや商店」を営み、1年を通じ多くの観光客の方々と触れあってきました。津波は自宅も、長年付き合ってきた近隣の人々をも押し流してしまいましたが、幸いにも灯台も歌碑も店も残りました。多くの人がこの地を忘れずに足を運んでくれることが薄磯豊間の復興と、昨年12月より店を再開しています。

大熊町大字下野上の吉家敏浩さん(50)

●現住所 会津若松市河東町の仮設住宅

避難先で、地元の人々が布団代わりに座布団を提供してくれ、久しぶりの床屋では日用品などを持たせててくれた。ラーメン屋では「避難して来られたんですね?」と声を掛けられ、値引きをしてくれた。行く先々で多くの人が見えてくれた気遣いが嬉しかった。今後大熊町に戻るか戻らないか、その決断が迷に先延ばしにされている。早く落ち着いて自分達の生活を始めたい。

南相馬市鹿島区の中川恵美子さん(64)

●現住所 南相馬市鹿島区の仮設住宅

地震、津波で夫もふる里も失い、絶望の淵に立たされていた私に、小千谷市の皆さんはとても優しく、そして沢山の温かさをいただき心が癒されました。あの日から1年、放射能という見えない恐怖はあるけれど、今は地元に戻り同じ被災者としての立場を共有しながら、復興ボランティアとして仮設住宅をめぐる活動を始め、皆さんから生きる勇気と元気をいただいている。

富岡町大字本岡の池田信雄さん(84)

●現住所 郡山市富田町の仮設住宅

東京に4ヶ月避難し、目に見えない急激なストレスに身も心も衰弱した時期もありました。昨年の7月に仮設住宅に入り、たくさんの方と知り合いになれたことが「薬」となり元気になりました。高齢であるがゆえの不安などで沈みそうな日が時々くることはあるけれど、55歳から始めた絵画が、仮設住宅での生活に新しい出会いを生んでいて、自分を前向きにしてくれます。

新地町大戸浜の牛坂毅志さん(59)

●現住所 新地町杉目の仮設住宅

福島の人口は減少していくでしょう。出生率の低下と共に、若い世代を中心に県外流出率が高まると想像できるからです。私の子供3人は独立して福島を離れていましたが、正直戻ってきてほしくないと考えています。「年間の累積線量が〇〇だから大丈夫です」では人は説得されません。今後の復興の方向性を誤れば取り返しづかること…。今がその分岐点だと思います。

飯舘村須賀の佐藤俊昭さん(43)

●現住所 福島市伏拝の借上げ住宅

東京電力福島第一原発事故に伴い緊急雇用紹づくり支援員として昨年8月より勤務しております。ボランティア調整物資担当として数多くの人と接し、困っている人達に対する支援活動の多さに驚きです。全国から温かい贈り物や数多くのボランティア等で避難者が支えられている事に感動しています。もし自分が逆の立場なら出来たのだろうかと考えさせられる毎日です。

広野町広洋台の氏家タカ子さん(62)

●現住所 いわき市中央台高久の仮設住宅

群馬県水上町へ温泉招待があり夫婦で参加しました。最初は布団などの物資を送って下さり、その後は温泉に入ってゆっくりして欲しいと、群馬バスを貸切り4月～6月にかけて水上～いわき間を28回も往復して下さったとききました。不安の中で心身共に癒やされました。水上町の皆さんに心から感謝しております。東北に春を告げる広野町へ帰る日を夢みて前へ進みます。

相馬市磯部の坂下耕一さん(44)

●現住所 相馬市柚木の仮設住宅

梨の専業農家でしたが津波で自宅は全壊、農業設備など全てと乗用車2台が流失。その夜から避難所生活が始まり追い討ちをかけるような原発事故、当時は絶望感で一杯でした。3月下旬に紹介された建設会社の社長の人柄と、震災翌日から復旧作業にあたっている事を聞き、お世話になろうと決心。復旧の仕事をしながら、磯部梨の産地維持のため兼業農家として頑張ります。

大熊町大字熊の武内めぐみさん(47)

●現住所 会津若松市河東町の仮設住宅

これまで同居していた義理の両親に加え、自身の両親のことにも気を配らなくてはならず、子ども達の学校のことなどもあり、毎日の生活のことで手一杯で精神的に余裕がない。ただ、家に籠りきりだと考え過ぎてしまうので、できれば外で仕事をする機会を作っていくたい。今はとにかく子ども達の成長が第一。震災はあったが、子ども達には自分達の人生を歩んでほしいです。

浪江町大字大堀の今野昭三さん(83)

●現住所 大玉村玉井の借上げ住宅

何を頑張れば良いのか骨組が見えなかった昨年。一家揃って笑顔で暮らせる安心と云う最高の慶び。戻らぬ昨日を懐かしむより、今年は辰年。干支は我が生れ歳。昇龍に跨り栄光の園に向かって前進する事を決意する。原発の廃炉迄40年。帰りたいけど帰れない。アア夢に見るよ故郷浪江。帰れる日が来るやう来ないやら。我が人生は、此處で終りか?いつの日、幸はめぐるやら…。

**あの日を忘れず
明日を見つめて****国と東電は誠意ある対応を／笑えない時こそ笑おう／自立へ前向きに****富岡町大字本岡の渡辺貫一さん(64)**

●現住所 郡山市富田町の仮設住宅

3月11日、東日本大震災のあの時、浪江町にて高速道路の現場作業を行っていた。突然の大きな揺れを感じ、立つことが出来ず座り込んだ。近くにあった車が普通に動いている様がするほど揺れが収まり、周りを見渡すとそこには、瓦の無くなった古民家の家々が並んでいる光景だった。その時感じた心のショックは計り知れない。絶対に忘ることはないだろう。

楢葉町大字北田の遠藤美和さん(42)

●現住所 会津美里町字宮里の仮設住宅

子ども達が避難先の学校に毎日通ってくれたこと、地元の友達に受け入れてもらい、馴染んでいったことが何よりも嬉しいことでした。子ども達の進路を考え、いざはいわきに移ることも検討中です。ずっと楢葉町で生まれ育ち、これからもずっと楢葉町に暮らしていくものと思っていました。元には戻らないだろうけど、少しでも以前の楢葉に近付けば、と願っています。

双葉町大字山田の佐々木孝子さん(60)

●現住所 白河市関辺川前の借上げ住宅

3月11日のあの日、私達はお彼岸の花の出荷準備に追われていました。そんな時に突然の避難命令です。「先ずは避難だ!」という思いだけとなり、出荷途中の花や栽培中の花などを、そのまま置き去りにして避難先へと急いだのです。この事で全ての花を失ったのが一番辛いです。夫婦で40近くも花と一緒に生きてきたので、やはり、もう一度お花の栽培をしたいと思います。

川内村大字下川内の佐久間真由美さん(27)

●現住所 郡山市富田町の仮設住宅

仮設に入り早くも8ヶ月。今までたくさんの人の温かみに救われました。「ありがとう」がいくつあっても足りないくらい…。川内村は帰村宣言が発表されましたが、まだまだ除染も進まず1歳の娘と帰ることは出来ません。1日も早く安心できる村を取り戻し、家族そろって帰りたいです。今年は見せることが出来ない雛人形を来年こそ飾ってあげられるよう願っています。

浪江町大字竜宿の佐藤生子さん(79)

●現住所 二本松市金色久保の借上げ住宅

震災と原発事故は私どもの穏やかな暮らしを奪い去り、到底受け止め難いです。家族の敏感な判断で避難する事ができました。失ったものは甚大ですが、多くの方々に支援を頂き感謝の日々です。震災の際に尊い命を失った方々の事を思うと言葉に尽くせぬ思いがあります。かけがえのない故郷を取り戻せるよう、国と東電には誠意を持って早急な対応をお願いします。

川内村大字下川内の久保田渡さん(63)

●現住所 郡山市富田町の仮設住宅

ふるさとを離れ、神奈川県に2ヶ月、白河市に1ヶ月、その後に今の仮設住宅に移り住みました。寂しさや暗く感じてしまう仮設住宅の暮らしも、一緒にいる仲間たちと集会所に集まり笑顔でいるようにしています。笑えない時こそ笑っていた方がきっといいことがあると信じ、いつか息子たち家族とともに、そして仮設住宅で知り合ったみんなと村に帰れる日を夢見ていました。

田村市都路町の阿部光子さん(62)

●現住所 田村市船引町の仮設住宅

夢にも思わなかった出来事が起き、1年が過ぎようとしています。振り返っても元には戻れない「虚しさ」。こんな想いで毎日を送る状態が続いているが、もっと苦しんでいる人たちがいることをテレビや新聞などで知ると恥ずかしくなります。自立するようゆっくりでも前向きにみんなで寄り添いながら手をつないで力を合わせて進んでいくことが出来たらと思っています。

いわき市平薄磯の荒木澄江さん(62)

●現住所 いわき市中央台高久の仮設住宅

私は生家から外に出て生活するという経験がこれまでありませんでした。生まれた家以外での初めての生活が、震災と東京電力福島第一原発事故による避難、仮設住宅という経験の中で、私たち避難者の為にたくさんのボランティアの方々が色々な事を教えてくれたり、楽しませてくれたりとても感謝しています。早く広野に帰りたい気持ちですが、いわきは私の第二の古里です。

大熊町大字下野上の吉家敏浩さん(50)

●現住所 会津若松市河東町の仮設住宅

避難先で、地元の人々が布団代わりに座布団を提供してくれ、久しぶりの床屋では日用品などを持たせててくれた。ラーメン屋では「避難して来られたんですね?」と声を掛けられ、値引きをしてくれた。行く先々で多くの人が見えてくれた気遣いが嬉しかった。今後大熊町に戻るか戻らないか、その決断が迷に先延ばしにされている。早く落ち着いて自分達の生活を始めたい。

双葉町大字長塚の清水敏英さん(63)

●現住所 白河市郭内の仮設住宅

双葉町に帰り、海釣りをしたい。黒ダイ、相ナメ、石持、平カニ…竿を一日中垂らし、海を見ながら釣りたい。地魚を腹一杯食べたいのだ。そんな夢をもう一度見たい。復興の願いをこめて、双葉町章のマーク、町の花さくらをモチーフに絵付けした黄色い幸せだるまを作製した。御用の方は佐川だるま製作所まで(0248-23-4239) 来年の色は、ピンク色かな~ 七転び八起!

飯館村飯樋の青木弥生さん(37)

●現住所 飯野町字白山向の借上げ住宅

あの震災から1年を迎えます。ふるさと飯館からの避難はとてもつらい決断でした。今は避難生活にもだいぶ慣れ、飯館村社会福祉協議会の生活支援相談員として仮設、借上げ住宅を訪問しています。訪問先での村民の方との会話の中に貴重な意見も多く、村民の方の声を大切に聞き、皆さんの生活が少しでもより良いものになるよう精一杯努力していきたいと思います。

浪江町大字樋渡の志賀雄一さん(70)

●現住所 二本松市油井の借上げ住宅

地震と原発事故のため、故郷を離れ避難生活を強いられているのが一番悔しい。嬉しかったのは浪江でやっていた合唱団の仲間と次第に連絡が取れて、懇親会を持つことが出来たこと。昨年12月には「浪江クリスマスコンサート」にも参加し元気に歌いました。嬉しくて泣きながら歌っていた人もいました。絶対に浪江に帰りたいです。